



地域づくり通信 NO. 15

妙高市地域づくり協議会は、市内54の自治会や町内会、地区協議会などで組織され、『安全で生きがいのある地域づくり』をみんなの参加と協力によって推進することを目的としています。

当協議会では、令和4年度の目標に『参加とふれあいで笑顔と安心の地域づくりに努めよう』を掲げ、共助活動や地域づくり活動の活性化を図るために、日ごろから多世代の交流を通じて顔の見える関係づくりを行い、様々な取り組みを進めるとともに、地域への情報提供や学習機会の提供、地域同士の交流促進を図っています。

今回は、「地域づくりSDGs交付金」等を活用して、地域が独自に行っている取り組みの一例を紹介합니다。参考にしてみてください。

■「地域づくりSDGs交付金」の取り組み紹介！

末広町町内会（つながる場づくり推進活動）

子どもから高齢者までが参加する地域の茶の間『末広カフェ』で“食”を通じた、地域の絆づくりに取り組んでいます。

末広カフェでは、月に2回の料理教室を開催し、材料には、町内会の人々が自分の家で植えきれなかった苗を頂き、町内会の畑である「末広農園」で育てた野菜を使用しています。



末広カフェでは、4月には小学校1年生になった子どもたちに、ピザを焼いてプレゼントしたり、ひとり暮らしの高齢者のかたが参加して、餃子やピザ作り、クリスマスに行くケーキ作りも大人気のイベントになっています。「末広カフェ」は地域の住民同士をつなぐ場所になっています。

関山自治会【花植えボランティア関山】（花いっぱいのもちづくり活動）

関山地区の花いっぱい活動は、17年以上続く地域の美化活動です。

地域の中で、最も人々が行き交う、関山駅と関山神社の間を走る国道の交差点の花壇に花を植えています。

春はチューリップ、夏から秋にかけてベコニアなどを植えています。夏の暑い日も、2班に分かれて水遣りを実施しています。この道を通る方々が、花を見て笑顔になればという想いで活動されています。

地域のかたからは、「きれいな花をありがとう」という声を頂き、花植え活動を通して地域を笑顔にする活動になっています。



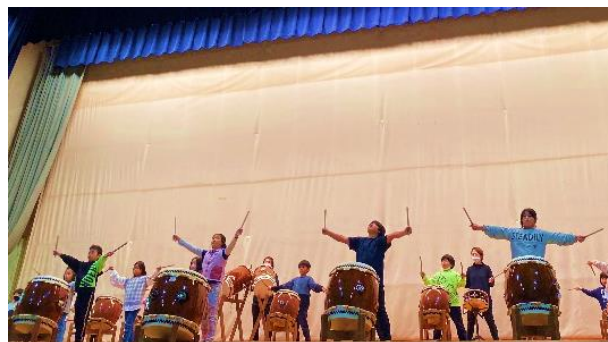
赤倉温泉公民館（子ども育成活動）

「赤倉温泉子ども太鼓」は、40年以上続く赤倉の伝統文化の活動です。毎週月曜日と火曜日に赤倉体育センターに集合し、3歳から12歳までの子どもたちが練習し、地域の祭りや文化祭などで披露しています。

6年生が中心となって、声を出しながらひとつのまとまった音になるように練習を積み重ねています。

講師を務めるのは、子ども太鼓の卒業生。

自分たちが楽しかった地域の伝統と思い出を次の



子どもたちにも教えてあげたいという想いで活動を実施しています。人数は年々減ってきているけど、小さい時に耳に刻まれた音色は大人になっても忘れず、地域の祭りでは、卒業生による演奏の時間もあり、地元を離れた人も祭りでまた故郷の伝統に親しむ機会があり、生まれ育った地域をずっと大事に思える活動になっています。

経塚町町内会（楽しく運動・健康づくり活動）

経塚町では、「パワーアップクラブ」「元気茶屋」と呼ばれる活動グループで、介護予防体操や脳トレ運動などを月1~3回実施しています。

この活動は、約20年続く活動で、参加する皆さんの生きがい活動になっています。

活動内容は、参加される皆さんの話し合いで活動内容を決め、今年度は、介護予防教室、脳トレ運動などを行いました。

また、集まった機会を有効に活用して、妙高警察署職員による犯罪被害防止講座や認知症講座を実施し、安全や健康への意識を高める機会も作っています。さらに、マジックショーやビンゴゲームなどのイベントを交えながら、楽しく活動ができるように全員で協力して活動を行っています。

活動は11月まで。厳しい冬を超えて、またみんなで元気に活動することが楽しみです。



お知らせ

上記の活動は、「妙高市地域づくりSDGs交付金」を活用しています。

この交付金は、地域が自主的・主体的に行う活動に対し支援する制度で、①基礎交付金と②上乗せ交付金で構成されています。

①現在の地域コミュニティ活動及び敬老事業への支援のため、各地域の世帯数(1世帯あたり400円)と、75歳以上の高齢者数(1人あたり700円)に応じて交付

②上乗せ活動メニューから、地域で取り組んでいる、また新たに組みたい活動を地域で選択して実施(用途は活動に使うものであれば何でもOK※領収書と活動写真が必要)

詳しくは…右のQRコードよりご覧ください▶ 市公式HP



■「地域の元気づくり活動助成事業」の取り組み紹介！

平丸ブナ林保全クラブ（地域財産としてのブナ林保全活動）

平丸のブナ林を新たな視点で活用し、地域の維持や活性化につなげることを目的にブナ林にある遊歩道や周辺の整備を行い、環境保全に向けての基盤づくりに取り組んでいます。

今年度の活動では、新潟大学名誉教授紙谷先生によるブナ林の生育状態、植生等の調査を行い、これを元に作業内容について検討してきました。

また、遊歩道の橋の架け直しや過去に設置した鉄の杭の除去等も行い、家族連れでも安心して散策できる対策も行ってきました。今後は間伐材等を活用した木工用品の販売やイベント、平丸を中心としたツアー等の企画も考えながら活動を展開していく予定です。

1年間でたった5ヶ月間しか入ることのできない貴重なブナ林。「新潟県森林浴の森百選」や「市民ふれあいの森」に指定され、親しみやすい休養の場となっています。平丸の財産を維持管理し、守っていくために活動される人たちがいることで美しい景色が残っていきます。

遊歩道の橋の整備▶



矢代古民家活用の会（古民家を活用した地域活性化事業）

築64年、総ケヤキ作りの古民家を改修し、地域住民が集う憩いの場をつくることを目的に、令和2年度から「古民家カフェ矢代」を営業しています。

今年度の活動では、地元のアマチュアバンドや歌手のコンサートを3回開催。その他にも、地域のかたの作品展や雛人形展、五月人形展などを実施し、地域の活性化事業にも力を入れてきました。コロナ禍でもここまで頑張ってくることができたのは多くの人に支えられ、また「自らが楽しみながら活動しているから」。

古民家カフェには、地域住民や県内外からの来客があり、地産地消を基本にメニュー作りを心掛け「スタッフが楽しくなければお客様が楽しい訳がない」を合言葉に頑張っています。

また、昨年開業した農家民宿では、田舎生活や文化を体験してもらうことを目的とし、今年度は東京農業大学から研修生を受け入れるなど、古民家を活用して様々な活動に取り組んでいます。



▲ザイダンバンドコンサート

おしらせ

上記の活動は「妙高市地域の元気づくり活動助成事業」の補助金を活用しています。

この制度は、地域住民団体や市民活動団体等が地域活性化や地域課題の解決のために自らの創意工夫により取り組む、自主的かつ自発的なまちづくり活動に対して支援を行うものです。

- ・団体が取り組む新規事業または既存事業を発展・拡大する事業に対して1事業につき3回（3ヶ年）を 限度に補助します。

- ・令和4年度は、5団体からの申請があり、補助金が交付されています。地域づくり協働センター公式Facebookで各団体の活動紹介をしていますのでぜひ、ご覧ください。また、来年度の申請に関する相談等がありましたらお気軽に地域づくり協働センターへお越しくください。

詳しくは…右のQRコードよりご覧ください▶市公式HP



地域づくり
協働センター
Facebook



■ 市内の地域づくり活動紹介！

姫川原地区コミュニティ運営協議会（アンケートから始まった新たな取り組み）

姫川原地区では、保育園や小学校の統合以来、大きな地域活動が減ってしまい、更には、新型コロナウイルスの流行によって地域行事の中止が相次ぎました。

こうした中で「地域をより良くするにはどうしたらいいか」を考え、コロナ禍でもできる活動として、地域への住民の想いや考えを聞くため、中学生以上「全住民アンケート」に取り組みました。そして、アンケート後の報告会や話し合いを通じ、「コミュニティセンターの開放実験」や「若者が集う居酒屋の開催」などが提案され、今年の春にはコミュニティセンターで、若者が中心となった地域の居酒屋が開催されたほか、秋には地域の「親睦」と「防災力向上」を組み合わせた行事として、防災運動会を開催しました。

今後も地域では「できることからやってみる」を合い言葉にさまざまな活動を実践していきます。



▲アンケート後の話し合いの様子



コミセン
◀ 居酒屋



消火器を使った
運動会種目 ▶▶

【姫川原地区の活動の経過】

- R 2 : 全住民アンケート・報告会
- R 3 : 話し合い・コミセン開放
- R 4 : 居酒屋・防災運動会 等

白山町町内会（20年続く地域独自のアルミ缶回収）

白山町町内会では、市のごみ収集とは別に、町内会独自でアルミ缶回収を行っています。この活動は、回収業者から「独自にアルミ缶を回収すれば、収集重量に応じた金額を地域に支払う」と提案されたことをきっかけに、平成11年から開始されたもので、20年以上続けています。

回収は「毎月1回、市の収集日とは別の日にアルミ缶を集積所に出し、業者が回収する」という誰でも簡単できる方法ですが、住民にとって当たり前前の活動にするため、役員が中心となって防災行政無線や回覧板で呼びかけており、更に、分別を徹底するため、毎年、ごみの分別講座なども開催しています。

また、業者から支払われたお金は町内会の活動資金に充てており、この取り組みによって資源の再利用と地域の資金調達の二つに役立っています。

今後も地域では回収を継続するとともに、SDGsの一環としてごみの減量に取り組んでいきます。



▲集まったアルミ缶の様子

お知らせ

姫川原地区コミュニティ運営協議会と白山町町内会の活動は、10月16日に開催した「地域づくり活動取組発表会」で発表しており、下のQRコード（市公式YouTube）から様子を見ることができます。地域づくり活動の参考としてご覧ください。

①姫川原地区コミュニティ
運営協議会の発表の様子 ▶▶



②白山町町内会の
発表の様子 ▶▶

